

研修プログラム名【 救急科専門医養成プログラム 】

1. 診療科（専門領域）

救命救急医療、外傷医療、集中治療、災害医療

2. 研修期間

3年

\* 救急専門医を目指す医師のみならず、1-2年の短期トレーニングについても可能ですので是非御相談ください。

3. 募集人数

4名

4. コンセプト

当施設は東京都多摩地区の第三次救急医療の中核を担っています。救急器材・機器を常備しており、各種検査、血管内治療、緊急手術にも24時間対応しています。また、基幹災害拠点病院のリーダー的存在であり、日本DMAT事務局も設置されています。東京DMATや日本DMATの出動要請時にも、医療チームが災害や事故の際にいち早く現場に駆けつけられる体制を整えています。

救命救急科は、年齢や疾患の区別なくあらゆる重症度の患者に対応しています。救急患者の受け入れは、ER（二次救急）と救命救急センター（三次救急）の2部門に分かれています。ER部門では診療科を問わず初期診療を行い、該当専門診療科に引き継ぐ役割を担っています。救命救急センターでは、関連診療科と協力をしながら、重症患者の救命処置や専門的治療を行います。ドクターカーも運用しており（出場件数年間約50件）、現場に医師を派遣して迅速に救急処置を行うことにも努めています。さらに、東京消防庁ヘリコプターによる患者搬送も年間30症例前後あり、ドクターヘリとして現場に救急医を派遣することもあります。集中治療を必要とする重症患者は、救命救急病棟に収容しており、その入室患者数は年間3000名以上に上ります。

また、救命救急科では、急性期以降も治療・管理を継続することも大切であると考え、可能な限り社会復帰まで診療を行うことに努めています。さらに、当施設は、日本救急医学会救急科専門医指定施設・指導医施設、日本集中治療学会専門医研修施設、日本外傷学会専門医指定施設にも認定されており、救急医療関連領域の専門医・指導医取得に向けた教育にも力を注いでいます。

5. 短期取得技能およびコース

救急領域における各種手技を、単独で確実に行える。

AGLS/JATEC/JPTec/日本DMAT 正式コース受講

6. 診療科の実績と目標症例数

症例数と手術件数の調査年度

主要疾患	入院数(平成25年度)	目標症例数(年間)
病院外心停止	340	100
重症急性冠症候群	105	30
重症大動脈疾患	65	20
重症脳血管疾患	136	40
重症外傷	257	80
重症熱傷	6	2
重症急性中毒	35	10
重症消化管出血	81	20
重症敗血症	35	10
重症体温異常	35	10
重症呼吸不全	61	20
重症急性心不全	60	20
その他重症疾患	20	10

主要疾患の分類は東京都充実段階評価に準じます。

手術および処置	件数(平成 25 年度)	目標症例数(年間)
緊急開頭術	214	70
緊急開胸術	40	10
緊急開腹術	269	80
緊急整形外科	193	60
緊急 IVR	282	90
緊急血液浄化法(HD 除く)	195	60

## 7. 診療科の指導体制

診療科医師数 常勤 15 名、非常勤 1 名

診療科研修の指導にあたる医師 10 名

主として研修指導にあたる医師の氏名

加藤 宏

〃

診療科経験年数

24 年

## 8. 到達目標

- ◎ チームサブリーダーとして、救命救急センターの初療および ICU における診療を、自らの判断で行える。
- ◎ 救急外来で遭遇する様々な徴候/病態に対して、自らの判断で対応出来る。
- ◎ 集中治療室での様々な病態に対して、自らの判断で管理できる。
- ◎ ACLS/JATEC の理論・手順を理解し、臨床研修医に指導できる。
- ◎ また、将来、救急医療部門の責任的立場を目指す医師に対しては、引き続き常勤医として勤務することにより日本救急医学会指導医の資格を取得できると共に、以下の項目についても深く研修する。
  - メディカルコントロールを含めたプレホスピタルケア体制の理解
  - 診療の質維持・向上プログラム、各種診療データ体制の理解
  - 院内災害対応システム、災害現場派遣医療チーム (DMAT)

## 9. その他

サブスペシャリティの研修を希望する場合は、紹介も行っております。

現在の研修先 (実績)

当院消化器外科

当院整形外科

当院麻酔科

川崎市立病院外科